

魔法の言葉 プロジェクト 活動報告書

報告者氏名: 堀田秀和、西尾環

所属: 楡木小学校

記録日: 2018年 2月 19日

キーワード:

表現、読み書き支援、自信、見通し、達成感、不安

【対象児の情報】

○学年

小学校 4 年生 知的障害学級所属、男児 通常学級 4 年 3 組を交流学級としている。

○障害名

知的障がい

・障害と困難の内容

・読みの場面で大きな困難を示す。

・多動性、衝動性がある。

【活動目的】

○当初のねらい

支援学級での目標

①見通しを持って活動に参加することができる。

②読みの困難に対して自分の方法を見つけ、活用することができる。

③自分の思いを様々な方法で表すことができる。

④自分がタブレットに打ち込んだ文字や、紙に書いた文字を読むことができる。

交流学級での目標

①図工の作品について、思いを伝えることができる。

○実施期間

2017年 5月11日～2018年2月16日まで

○実施者

堀田秀和、西尾環

○実施者と対象児の関係

支援学級担任、交流学級担任

【活動内容と対象児の変化】

(ア)対象児の事前の状況

行動やコミュニケーションについて

・感情の起伏が激しく、間違いを指摘や否定されると怒り出す。

・興奮すると周りにあるものを投げる。

・声が大きく、周りが不快に感じる音量で話すことがある。

学習について

・学習意欲が高く、与えられた課題に集中して取り組むことができる。

・正解したいという気持ちが強く、間違うことを嫌う傾向にある。

・漢字が好きであり、周りにある文字や本から見た字をノートに書き写す活動を好む。

読みについて

・本が好きで図書室からよく本を借りる。借りた本は挿絵を見て楽しんでおり、読みたい本があるときは教師が読み聞かせをしている。

・漢字の形は入っているが、読みと一致していない字が多い。

・平仮名はすべて習得している。

- ・音読は 1 文字ずつ追っている。
- ・単語を塊として捉えることが難しく、一番上の文字を見て勝手読みがある。

交流学級について

- ・交流学級には進んで参加することができる。感情が高ぶっているときには自分で「行かない。」という事ができる。

(イ)活動の具体的内容

支援学級での目標①(見通しをもって活動に参加することができる)について

- ① 環境整備を行う。
 - 環境整備を以下のように行い、児童の視覚、聴覚の刺激を減らす。
 - ・学習空間を、教室内のカーテンで囲まれた場所に変更する。
 - ・ノイズキャンセラーを活用し、周囲の音を減らす。
 - ・教室の移動を行う。(二学期より実施)
- ② アプリ「ドロップトーク」と見通しを持つためにツールを活用する。
 - ・見通しを持てるようにするため、アプリ「ドロップトーク」に一日の時間割を入れる。
 - ・一時間ごとの学習内容と学習時間を、毎時間ホワイトボードに書き、デジタルタイマーで示す。
- ③ 行動を点数化する。
 - ・一時間ごとの学習態度を◎、○、△で示し、学習意欲を持てるようにする。

支援学級での目標②(読みの困難に対して自分の方法を見つけ、活用することができる。)について

- ① 文章に親しむ。
 - ・VOCA ペン(読み上げペン)やわいわい文庫(朗読本)を用いてたくさんの文章に親しむ。
 - ・わいわい文庫表紙一覧から読みたい本を選ぶ。
- ② 読んだ本の記録を取る。

支援学級での目標③(自分の思いを様々な方法で表すことができる。)について

- ① 声の大きさを知る。
 - ・アプリ「Too Noisy」、アプリ「子ども静かにタイマー」を使い、声の大きさを知る。
- ② 毎日日記を付ける。
 - ・アプリ「三秒日記」を使い、その日あったことを表現する。
- ③ 交流学級の友だちに、自分の作ったものを発表する。
 - ・自分だけの漢字帳を作り、漢字クイズを作成する
 - ・交流学級の友だちに、支援学級や交流学級で漢字クイズをする。
- ④ 児童の作品を教室や廊下、トイレに掲示する。
 - ・児童が作成した習字や呼びかけを提示する。

支援学級での目標④(自分がタブレットに打ち込んだ文字や、紙に書いた文字を読むことができる。)

- ① iPad の機能を使い、読みやすくする。
 - ・iPad のアクセシビリティ機能を使い、読みやすい大きさの文字に変更する。
 - ・読み上げ機能を活用し、文を確認する。
- ② 漢字の読みを覚える。
 - ・分からない字は教師に尋ねながら、漢字アプリをする。
- ③ 紙に書いた文章を読む。

交流学級での目標(図工の作品について、思いを伝えることができる。)について

- 友だちの作品や自分の作品を写真で撮り、担任に感想を伝えるようにする。作品の工夫したことを担任に話すことができる。

(ウ)対象児の事後の変化

支援学級での目標①(見通しをもって活動に参加することができる)

① 環境整備について

- ・カーテンを使用することで刺激がカットでき、集中して学習することができた。
- ・ノイズキャンセラーを気に入り、付けることで安心することができた。必要なときには自分で要求する場面も増えてきた。
- ・一学期は広い教室に二人の担任で学習していたが、二学期より狭い教室に移ったことで刺激が減り落ち着いて学習に取り組めるようになってきた。
- ・クールダウンを校長室、会議室、職員室など静かな場所で行った。児童が好きな活動(iPad やブロック、お絵かき、漢字の書き取りなど)をすることで、静かにクールダウンすることができた。

② アプリ「ドロップトーク」とホワイトボードの活動

- ・アプリ「ドロップトーク」では一日の流れが見え、終わった学習を消すことができるので見通しを持つことができた。
- ・ホワイトボードには学習内容と時間を細かく提示した。プリント〇枚、教科書〇分など具体的数値で児童に分かりやすく提示することで見通しが持ちやすくなった。それにより、iPad がすぐに使えなくても我慢することができるようになってきた。最後に iPad やお絵かきなどの楽しみにしている活動があることで、落ち着いて学習できる時間が増えてきた。
- ・学習中にホワイトボードと同時にデジタルタイマーを使用することで見通しが持ちやすくなり、その他の部分でも活用するようになった。クールダウンしたいときに「〇分でいい?」と聞くと「〇分(がいい)。」と自分でタイマーを持つてくる姿や、「あと〇分したら交流学級に行く。」など決めて動くことができるようになった。
- ・3学期には「絵が描きたい。」「迷路がしたい。」など自分がしたいことを訴えることがあっても、「プリント〇枚したらいいよ。」や「あと〇分頑張ろうか。」などの教師の提案に耳を傾けることができた。また、提案を受け入れる姿も見られるようになった。
- ・まだ興奮することはあるが、一日の見通しを持つことで、人や物を叩いて興奮する回数が減り、興奮の強度も小さくなってきている。

③ 行動を点数化する。

- ・よく出来たら◎(2点)、出来たら○(1点)、興奮したら△(0点)として、家庭で行っている点数化を学校でも行った。自分の行動を振り返ることができ、「一時間目は△だ」など、興奮した時のことも思い出すことができた。

支援学級での目標②(読みの困難に対して自分の方法を見つけ、活用することができる。)について



わいわい文庫表紙一覧
(読み上げにボイスオブ
イジー使用)



アプリ「ボイスオブデージー」
6月より活用

① 文章に親しむ

- ・気に入った本は何度も読み返す姿が見られ、話を聞きながら声に出すようになった。
- ・VOCA ペンを教科書の音読で使用した。文字を読むことへの抵抗感が減り、文章に慣れ親しむことができた。自分でできることから学習の幅が広がり、一人でできる活動が増えてきた。
- ・表紙の絵があることで、読みたい本を選ぶ手助けになった。

② 読んだ本の記録を取る。

- ・シールが増えていくことで達成感を得ることができた。

支援学級での目標③(自分の思いを様々な方法で表すことができる。)について

① 声の大きさを知る。



アプリ「Too Noisy」
6月より活用



アプリ「子ども静かにタイマー」
7月より活用

- ・視覚的に声の大きさが分かるので、大きな声を出していることに気づくことができた。
- ・休み時間にアプリを使って自分の声の大きさを確かめている姿が見られた。
- ・授業中大きな声が出ているときには、アプリと声のものをさしを使用した。「今4の大きさだよ。」と伝えるといい直すことができた。
- ・交流学級で聞きやすい声で話す姿が増えてきた。

② 毎日日記を付ける。



アプリ「三秒日記」
5月より活用

- ・三秒日記で書くことで、文の構造を意識することができた。打ち込みで書くと文にまとまりがないが、単語を選ぶことで表したいことをまとめることができた。

③ 交流学級の友だちに、自分の作ったものを発表する。



アプリ「常用漢字筆順辞典」
5月より活用



アプリ「キーノート」
5月より活用



漢字クイズ作成中



交流学級での発表

- ・常用漢字筆順辞典を用い、自分が好きな漢字をスクリーンショットすることでオリジナル漢字帳を作った。漢字帳にある漢字を使ってキーノートで漢字クイズを作り、交流学級の友だちを支援学級に呼んで発表を行うことで、自信にもつながった。9月には交流学級で行われた自慢大会で、作ったクイズを発表することができた。
- ・漢字クイズで学んだ方法を用い、見学旅行のプレゼンを作った。学活の時間に交流学級で発表する時間を取り、友だちの前でプレゼンを見せることができた。照れながらの発表だったが、自分が作ったものを友だちが「すごいね」と言うのを聞いて喜んでいた。

④ 児童の作品を教室や廊下、トイレに掲示する。

- ・「歩く」と習字で書き、支援学級前の廊下に掲示した。自分の作品が人目に触れることで、次は何を書こうかなと意欲を出すことができた。



児童の作品
「ソーラン節」

交流学級での目標(図工の作品について、思いを伝えることができる。)

- ・友だちの作品を写真に収めることで集中して見ることができ、友だちが工夫している点を考えることが容易になった。
- ・交流学級で撮影する役割をもつことで、クラスの一員として頑張っていることが形に残った。今まで以上に交流学級へ参加できるようになった。「〇〇さんはこんなの作ってた。」など、写真を撮って気づいたことを呟いていた。
- ・2月の保護者からの連絡帳に、「西尾先生(交流学級担任)は図工を教えるのが上手。」と家ですべて書いてあります。と書いてあった。このことから、図工の授業に対して意欲的に参加している姿がうかがえる。

支援学級での目標④(自分がタブレットに打ち込んだ文字や、紙に書いた文字を読むことができる。)

① iPadの機能を使い、読みやすくする。



三秒日記で書いた文章

- ・児童の読みやすい大きさに文字を変更することで、iPad上の文字が読みやすくなった。
- ・読み上げの速度を調整することで、聞き取りやすくなった。
- ・アプリ「三秒日記」で書いた文章を、読み上げ機能を使って確認をした。音声で聞くことで、文章のおかしな点に気づくことができた。

② 漢字の読みを覚える。



アプリ「小学生漢字」
5月より活用

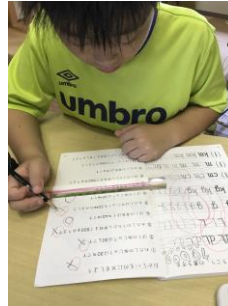
- ・問題が読めないときは
 - (1) 教師に読み方を尋ねる。
 - (2) 読みを聞いても分からないときは教師が答を書き込み、すぐに消す。
 - (3) 答を書く。
 の順で学習をした。問題数が5問と少ないので、何度も繰り返し練習をして覚えることができた。
- ・全問正解した数がすぐにわかるので、回数を増やそうと意欲的に学習できた。

② 紙に書いた文章を読む。

- ・自分が書いた字にカラーボールペンを当てることで、どこを見ればいいのか分かりやすくなった。
- ・教師の読みを聞くときにカラーボールペンを当てることで、文章を目で追いやすようになった。
- ・自分の思いを文章にすることにはまだ抵抗感があるが、9月に行われた特別支援学級合同キャンプでは、「今日楽しかったことを書いてみようか。」との教師の言葉かけに、「今日、花火大会。」と自分で書くことができた。
- ・漢字ドリルではなぞり書きや視写を好んで行っていたが、分からない字をドリルの中から探して書く姿が見られるようになってきた。



カラーボールペ



カラーボールペを使っ
ての学習の様子

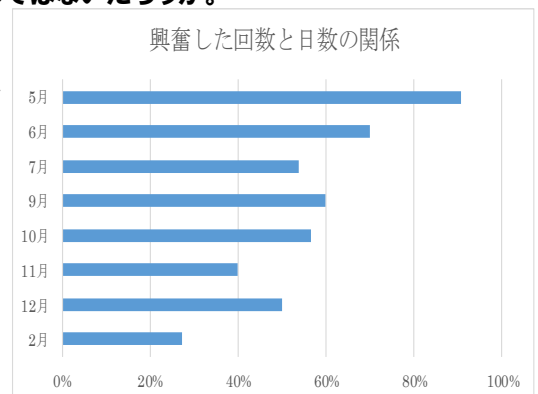
【報告者の気づきとエビデンス】

○主観的気づき

- (1) 学習環境を整え視覚支援を行うことで、一月当たりの興奮する回数が減ったのではないだろうか。
- (2) わいわい文庫や漢字アプリを使うことで語彙力が増え、日記の表現につながったのではないだろうか。
- (3) 交流学級で発表や係の仕事をする中で、自信を持つことができたのではないだろうか。

○主観的気づきに関するエビデンス

- (1) ・右のグラフから、一月当たりの興奮する回数が減ってきていることが分かる。環境整備に加えて、「ドロップトーク」やホワイトボードで学習内容を提示することで、興奮することが少なくなったと考えられる。
・5月は間違えるとプリントを破って興奮する姿が見られたが、12月に行った片仮名テストでは、「間違ってもいいんだもんね。」といいながらプリントをし、間違い直しまですることができた。「もっとしたい。」と言って練習をする姿も見られた。学習の際に間違ってもいいことを伝え続けたことや、達成したときや我慢できたときには繰り返し褒めるようにしていた。成功体験の繰り返しが情緒の安定につながったと考えられる。
・2月の体育では、「どうだった？」と教師から聞かれた際、「点取ったけど負けた。」「頑張ったから負けてもいいんだもんね。」と言っていた。自分の中で感情の処理ができるようになってきた。
・1学期は興奮した時のことを思い出すとイライラしていたが、2学期後半からは思い出してもイライラすることが減り、何故興奮したのかを教師に説明できるようになってきた。その日のことや一週間のことを振り返られるようになり、「今日は学校頑張った。」など学校の事を家庭でも話してい



行動の点数化



アプリ「ドロップトーク」

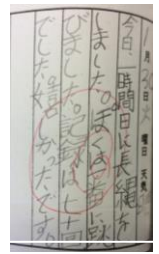
一日の流れ

る。充実感につながっていると考えられる。

- (2)・漢字アプリで覚えた漢字を日記に書くことが増え、内容も借りた本の名前を書くものから、その日楽しかったことや遊んだことを書くようになった。3学期になると、助詞を意識している姿が見られ、教師に確認しながら書いていた。語彙力が増え、漢字の力も着いたことで意欲が上がったと考えられる。

・1学期は、漢字の学習を一人でするときにはなぞり書きや視写を行っていた。分からない問題は全て教師に尋ね、出来ないとイライラしていた。3学期には分からない問題を自分で調べて書く姿が見られるようになってきた。読みに対する抵抗感が減ってきたことが分かる。

- (3) 交流学級と連携することで、自分の居場所を感じることができている。給食の時間には余ったおかずを友だちに入れて回る姿が見られるようになった。図工の木版画では交流学級担任の指導のもと作品を作っており、友だちから「上手だね。」と褒められて嬉しそうにしていた。また、体育の授業では得意のサッカーだったこともあり、友だちから頼られていた。こうした活動の繰り返しによって自信が高まったと思われる。



児童が書いた日記



木版画

○今後の見通し

- ・新しく学年が上がると環境が変わるため、興奮することが考えられる。気持ちの落ち着け方を繰り返し学習する。
- ・意欲的に学習しようとする姿勢が見られるようになってきたが、学習内容によっては取り組むことができない。本人と話をしながら受け入れやすい学習方法を探っていく。
- ・友だちとの関わりがもてるように、交流学級担任と連携して今後も活躍の場を設ける。